

令和4年度

# 学生によるオレンジリボン運動

## 聖泉大学 実施報告書



実施主体 聖泉大学 別科助産専攻 8期生

実施内容 2022年4月18日～5月:オレンジリボン運動の企画・準備・広報

2022年5月21日:多賀大社における帯祝いの会&オレンジリボン運動

2022年5月下旬～6月:参加者集計および活動評価、まとめ

### ①事前に取り組んだ内容

私たちは、入学前に友田明美著書の「子どもの脳を傷つける親たち」を読み、子どもへの虐待が子どものあらゆる面に影響を及ぼすことを知りました。入学後は、助産師学生として子どもへの虐待の問題を知っていくなかで、マルトリートメントといわれる大人から子どもへの不適切な関わりが、その後の子どもの人生を大きく左右させてしまう可能性があることを学びました。妊婦さんにかかわることができる助産師(学生)は、子どもの虐待予防に関われる職業であり、その役割が重要であると考えます。今回、わたしたちは、滋賀県第1の大社である多賀大社のご協力のもと、安産祈願で来られた妊婦さんとその家族、そして一般の参拝者の方を対象に、「帯祝いの会&オレンジリボン運動～子どもたちに幸せな未来を～」を開催させていただくことになりました。日本は古くから着帯の儀礼(安産祈願)を通じて、子どもを授かったことを祝い、母子の無事(安産)を祈ってきました。妊婦はそのことにより胎児への思いを深くし、夫やその家族は生まれ来る子どもへの気持ちを育む機会としてきました。しかしながら近年は、腹巻タイプやベルトタイプを使用している妊婦さんが多く、そういった着帯儀礼の伝承は途絶えがちです。そこで「帯祝いの会」と称して、妊婦さんや家族、そして生まれ来る子どもにとっても思い出に残る体験をしてもらいたいと考え、さらし布の腹帯を巻く体験を企画しました。同時に、オレンジリボン運動として、マルトリートメントについて紹介し、これからの育児を考えてもらい、さらに、愛情を育むかかわり方について理解してもらうために、抱っこ体験や赤ちゃんへのメッセージをご家族で記載してもらうことを計画しました。

### ②実施期間に取り組んだ具体的内容

活動目的は、①マルトリートメント・オレンジリボン運動について周知を促す②愛情を育む関わり方について知ってもらう③腹帯を実際に使用することで赤ちゃんへの思いや母性を育む機会にする、としました。目標としては、①子どもの虐待やマルトリートメントについてその予防法を知ることができる②育児の認識チェックシートを通じて家族間で子育てについて話し合いの機会にしてもらう③赤ちゃん人形の抱っこ体験や腹帯体験をして赤ちゃんへの思いを育んでもらう、を挙げました。

活動内容としては、多賀大社に安産祈願に来られた妊婦さんにご家族、その他参拝に来られた方を対象に腹帯体験とオレンジリボン運動を行いました。オレンジリボン運動の一環であるマルトリートメントのブースでは、「育児の認識チェックシート」を使用し、夫婦間での子育てに対する認識の違いを知ってもらい、自宅で子育ての方向性について話し合うきっかけを提供しました。赤ちゃん人形の抱っこ体験では、横抱きの方法や抱く時の注意点、あやし方などを体験してもらいました。腹帯体験では、さらし布の腹帯を使用し実際に学生が腹帯を妊婦さんやパートナー、子どもに巻かせていただきました。腹帯を巻いた妊婦さんにご家族の写真をチェキで撮影し、良き思い出となるようフォトカードを作成し、プレゼントしました。最後に、絵馬の形をしたカードに、これから生まれてくる子どもや自分の子どもへの思いを書いてもらい、参加してくれた妊婦さんに、記念品をお渡ししました。

### 3 オレンジリボン運動を終えて…

今回の活動では、断続的に雨が降る中、のべ307名の妊婦さんやパートナー、子ども、祖父母、その他参拝の方などに参加していただき、幅広い世代に子育てについて考えていただける機会となりました。

マルトリートメントのブースでは、育児の認識チェックシートを夫婦で実施後に「初めて子育てについて夫婦で話した」「夫と子育ての認識が違っていたことが分かって良かったです。家に帰ってから話し合いたと思います。」という意見がみられ、夫婦間で育児について話し合うきっかけを提供することができたのではと考えます。また、ピンクリボン運動のことを知っている参加者はいましたが、オレンジリボン運動は初めて聞いたという人が多く、この活動を通して、オレンジリボン運動を知ってくださったと感じています。

抱っこ体験はどのブースよりも多くの参加者が体験されました。参加者の中には「両親学級がコロナでなくなってしまい、抱っこしたことがなかったから体験できてよかった」という声が聞かれ、スキンシップが子どもの心の発達に重要であるという意味とともに、新しい家族を迎え入れる準備をしてもらう良い機会になったように思います。

今回の活動は参加者にも楽しんでもらい、学生自身も楽しむことができる良いイベントとなりました。

この体験を活かし、この先も助産師という専門職に就く者として、オレンジリボン運動を広めていき、妊娠期から産後の育児を見据えた継続的なかわりを通じて、マルトリートメント（子どもの虐待）の予防に尽力していきたいです。

### 写真



参加者への説明のための前日シミュレーション



活動風景



腹帯体験

